

(3) 海洋に関する国民の理解の増進

○「海の日」「海の月間」関連イベントとして、以下を実施しました。

- ・7月15日に東京港晴海埠頭及び周辺施設で「『海の日』行事『総合開会式』及び『“海と日本プロジェクト” in 晴海』」を開催しました。今回の「総合開会式」は、C to Sea プロジェクト公式アンバサダー「STU48」の船上劇場「STU48号」を会場として、安倍内閣総理大臣からの「海の日」ビデオメッセージを発信したほか、同年4月に盲目のヨットマンとして史上初の太平洋横断に成功した岩本光弘を招聘した講演を実施しました。また「海と日本プロジェクト in 晴海」では、船舶の一般公開やブース展示等を実施し、過去最多となる約13,000人が来場しました。
(内閣府、国土交通省)



総合開会式が開催された船上劇場「STU48号」

- ・東京海洋大学では、一般の方々に海に親しみ・興味を持ってもらうとともに、教育研究活動をわかりやすく紹介するために、「海の日」に記念行事を開催しました。その中で調査・研究船の体験航海や教育研究に関するイベントや体験教室等が行われました。(文部科学省)

- ・JAMSTECでは、横浜研究所の研究開発活動に対する国民の理解を増進し、さらに海洋・地球科学への関心を高めるために「『海の日』Special Day」を開催しました。また、「海と日本プロジェクト in 晴海」イベントへの協力として東京港晴海埠頭で、学術研究船「白鳳丸」の一般公開を実施しました。(文部科学省)

○毎年7月の「海の日」及び「海の月間」を中心として、全国各地で、練習船等の一般公開、体験乗船、施設見学会、海洋安全や海洋環境保全についての啓発活動、海洋レジャーの普及や理解増進などのイベントが行われています。また、毎年6月の「海洋環境保全推進月間」には、海洋環境保全の指導・啓発、毎年7月の「海岸愛護月間」には、海岸愛護の普及と啓発を行っています。さらに、毎年11月の「灯

台記念日」を中心に、全国各地の灯台の一般公開等を行い、海上交通安全思想の普及等を進めています。(国土交通省)

○海洋に関する幅広い分野で顕著な功績を挙げた個人又は団体を表彰し、その功績をたたえ広く紹介することにより、国民の海洋に関する理解・関心を醸成することを目的として、8月に「第12回海洋立国推進功労者表彰」(内閣総理大臣表彰)を行いました。(国土交通省)

○7月16日～31日までの間、国の関係機関や民間の関係団体と連携し、「海の事故ゼロキャンペーン」を実施しました。全国各地で各種行事に併せた啓発活動、テレビ・ラジオ等による広報活動、訪船指導、海難防止講習会及び海上安全教室等を開催しました。(国土交通省)

○人々の津波に対する意識向上と津波対策の強化を目的に、「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道(9月10日～11日、北海道)、「世界津波の日」ニューヨーク国連本部イベント(11月5日、ニューヨーク)、津波防災と女性に関する研修(10月29日～11月7日、日本)などを実施しました。(内閣府、外務省、国土交通省)

○「C to Sea プロジェクト」を強力に推進するため、以下の取組を行いました。(国土交通省)

・こども霞が関デーや海の日行事等のイベントで海事関係団体等と連携して情報発信を行いました。

・インターネット⁵⁵を活用した情報発信のほか、Twitter⁵⁶・Instagram⁵⁷・YouTube⁵⁸等のSNSを積極的に活用し、独自取材した情報を中心に情報発信を行いました。

・マリナクティビティの魅力や実行にあたって懸念される情報を伝えることで心理的ハードルを下げ、気軽に体験してもらえるように促す啓発冊子「umiasoBe(うみあそびい)」を制作しました。

・中高校生及びその保護者を対象に、海事産業を将来の就職先として検討してもらうことを目的とした職業紹介冊子「SEA-GOTO 海のシゴトガイドブック」を学校等教育機関へ配布するなど、キャリア教育における積極的な周知啓発を行いました。



⁵⁵ 「C to Sea プロジェクト 海ココ」 <https://c2sea.jp/>

⁵⁶ 「国土交通省 CtoSea プロジェクト」 https://twitter.com/c2_sea_project/

⁵⁷ 「CtoSea プロジェクト (国土交通省)」 <https://www.instagram.com/c2.sea.project/>

⁵⁸ 「海ココちゃんねる【C to Sea プロジェクト】」
<https://www.youtube.com/channel/UCuKS5ot2ROHbBkHqE3VfL8Q>

- 海洋に関する様々な情報を有する大学・研究機関等で、ICTの利活用を進め、メディア、インターネット等を通じて、以下のとおりわかりやすく発信しています。
- ・神戸大学海事博物館では所蔵品のいくつかの資料がバーチャルミュージアムとして電子化され博物館ウェブサイト⁵⁹で公開されています。（文部科学省）
 - ・JAMSTECでは、保有する広報ツール及び拠点施設・設備・船舶等を活用し、機構の研究開発について国民がわかりやすく理解できるよう工夫した取組を行いました。（文部科学省）
 - ・水産研究・教育機構では、研究開発業務の成果等について、新聞、テレビ、雑誌、ウェブメディア等のマスメディアや機構のウェブサイト⁶⁰、SNS（Facebook⁶¹）等のICTメディアを活用し、積極的に公表しました。（農林水産省）
- 海上技術安全研究所では、海洋開発分野の人材育成に貢献するため、シミュレータ等を利用した海洋開発研修を引き続き実施しました。また、来訪者に対するシミュレータ等の施設公開や、主催する講演会や関係者との情報交換の場における動画・画像の積極的な利用、ウェブサイト上に「キッズページ⁶²」を設けて充実を図るなど、わかりやすい発信に努めました。さらに、外部の専門家を引き続き活用し、広報の強化に取り組みました。（国土交通省）
- 海洋国家である我が国の歴史・文化を知る上で重要な文化遺産である水中遺跡における調査・保存処理の手法を取りまとめた「水中遺跡の在り方について（報告）」をもとに、地方自治体等が水中遺跡の保存活用・整備を適切かつ円滑に進めていく上で必要な事項を検討するための有識者による議論を行いました。また、国内外の水中遺跡に係る保存・活用手法の研究や最新情報の収集を独立行政法人 国立文化財機構に委託して実施し、日本の歴史・文化に関する知見を深めました。（文部科学省）
- 海洋教育や海洋振興策の検討に対し、JAMSTECでは、各種メディア・企業・科学館・博物館・水族館等、分野を問わない様々な外部機関と連携した取組を行いました。（文部科学省）

⁵⁹ 「神戸大学海事博物館/バーチャルミュージアム（Internet Explorerをご利用ください）」

http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/maritime_museum/index.html

⁶⁰ 「国立研究開発法人 水産研究・教育機構」 <http://www.fra.affrc.go.jp/>

⁶¹ 「水産研究・教育機構」 <https://www.facebook.com/fra.go.jp/>

⁶² 「海上技術安全研究所 キッズページ」 https://www.nmri.go.jp/kids/kids_top.html